

下野国府 - 1,300 年前の県庁 -

律令国家と役所

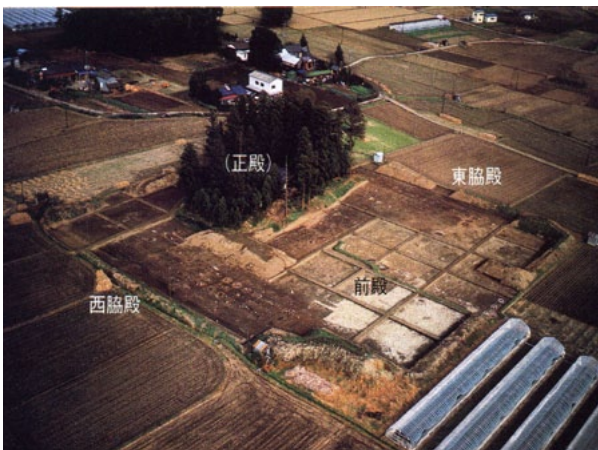
期間：平成 24 年 7 月 27 日～10 月 12 日
場所：栃木県庁本館 2 階県民プラザ前
ガラスショーケース

日本の古代は、およそ 1,300 年前につくられた「律令」という法律にもとづいて、天皇を中心に有力な貴族と役人が全国を支配する中央集権的な国家（律令国家）でした。この国家では中央官庁（奈良の都）の整備とともに、国内のすみずみまで支配を行きわたらせるために、地方の整備も推し進められました。全国を現在の「都道府県」にあたる 60 余りの国に分け、国をさらに幾つかの評（のちに郡）・里（のちに郷）に分けます。

現在の栃木県はおおむね古代の下野国と同じ範囲です。

これらそれぞれの国には「国府」が、各郡には「郡家」がおかれ、地方支配の拠点となっていました。これらの地方官衙には幾つかの機能がありますが、支配を示す儀礼の場としての公的機能、税を徴収・管理し、運営する財政機能、文書行政・情報伝達機能などがあり、今日の「役所」に相当する役割を果たしていました。「下野国府」は、まさしく古代における「栃木県庁」と言えます。

なお、中心となる建物があつた部分を「国庁（政庁）」、その他の施設をあわせた建物群を「国衙」、さらにそのまわりの周辺域を「国府」と呼びます。今の県庁に置き換えれば、国庁が県庁舎、「国衙」は県の施設群、「国府」は県庁周辺一帯と言えます。



下野国府跡 国庁域全景



下野国府復元模型

下野国府

下野国府は、長い間その位置が特定されていませんでしたが、昭和 51 年度以降、昭和 58 年度まで行われた県教育委員会による発掘調査によって、栃木市田村町の宮目神社周辺にあることが分かりました。国庁の位置が特定され、建物配置やその変遷などの内容も明らかになっている例は全国的にも未だ少なく、貴重な発見と言えます。

下野国庁の建物は、約 1 町（約 108 m）四方の囲いの中に、正殿（東西棟）、左右の脇殿（南北棟）がコの字状に並んでいます。前殿の南は広場となっており儀式を行う場と推定されます。これらの建物の建て替えも確認され、8 世紀前半から 10 世紀にかけて大きく 4 時期の変遷があることも分かりました。国庁の南側には、南門から延びる幅 9 m の道も発見されています。周囲には多数の建物跡が見つかっており、「国司館」と考えられている施設や倉庫が分散して建っていたことが明らかになっています。

現在下野国府跡は、栃木市教育委員会によって整備され、前殿の復元や、栃木市国府跡資料館が設置されるなど、史跡公園として活用されています。



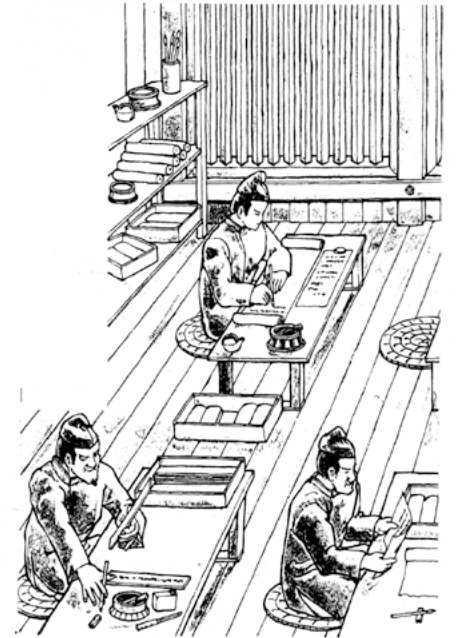
国司の館と推定される場所

役所での仕事

<国司> 国府に勤務するのは、中央から派遣された「国司」と地元から徴用された人たちです。国司はさらに役職に分かれ、なかでも「守」がその国の長官にあたり、すべての政務を統括する、いわば「県知事」にあたる役割を果たしていました。地方の視察、中央政府に帳簿などを上申すること、官人（役人）の勤務評定をつけることなども国司の仕事でした。

<役人の仕事> 戸籍により民衆を把握し、耕地の掌握・税の徴収、兵士の徴用、寺院や諸施設の設置・管理、犯罪取り締まりなどがそれぞれの役人により行われていました。今日の「財政、税務、土木、農政、警察」などの機構があったといえます。

国府につとめる職員数は国の位置・課税基準（人口・耕地面積）などによって決まっていた。下野国は「上国」として、500人近くの役人がつとめていたと推定されています。



役人の仕事風景

紙と木を用いた文書

うるしがみもんじょ
漆紙文書は、役所で不要になった文書が漆を入れた容器の蓋紙として再利用され、漆の付着によって残ったものです。紙が貴重であった古代では反故文書も大切に使われました。右の資料には、郷名とみられる文字や、田の面積などの田籍関係（土地台帳）の文字が認められます。

もっかん
木簡は、木製短冊形の行政文書で、紙と併用されました。行政上の必要事項が記されており、財政に関するものや郡名を書いたもの、紙の巻物につける題箋（だいせん）（インデックス）などが出土しています。中央や各地方との文書のやりとり、税や物資の流通に伴って付ける「荷札」の役割を果たしているものなども見つかっています。

写真右端の木簡は「都可郷」から「藤一荷」（藤蔓一束）を進上したことを記すものです。ほかに国衙財政を記したものなどもあります。文書を多く必要とする「国府」では、文房具である硯（すずり）が比較的多く出土することも特徴です。



漆紙文書（土地台帳が記されています）



木簡（失敗したら削ります）



円面硯

（仕事に必要な文具）

律令体制の終焉 今日県庁へ

平安時代のおわり頃には、荘園制の進展など土地の私有化が進み、また武士が台頭するなど、社会が大きく変化します。下野国府もその役割が大きく変わり、終焉に向かいます。

明治時代に至って、近代の「初代県庁」が栃木市に作られ、その後変遷を経て、今日の「5代目県庁」が平成19年に完成しました。

（財）とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

〒329-0418

栃木県下野市紫474番地

TEL 0285-44-8441

